

# 棚田くんが行く!

NPO法人棚田LOVERS 理事長

永菅裕一



2020年10月18日、日曜日。

僕が生まれ育った神崎郡市川町にあるリフレッシュパーク市川には、とても爽やかな風が吹いていました。かすかに土の香りがして、清らかな水の涼しさをまとった、僕の大好きな市川の風です。

全身を優しく撫でていく心地よさに包まれながら、この日開催された「棚田LOVER's FES2020」の様子を眺めていました。

段ボール秘密基地作りのコーナーでは、子どもたちが自分だけの作品作りに挑戦。わが子の独創的なセンスや四苦八苦する様子に、お母さんもお父さんも楽しそうに笑っています。

棚田米や旬の味覚を届けている出店には、ご年配のご夫婦の姿が。仲良く手を握りながら、「ほら、あれも美味しそう」と談笑しています。

まだ十代の若者たちは、男女でグループになって、次は何を見て楽しもうかと相談中。あでもない、こうでもないと言気に話しながら、誰かが誰かを意識しています。その初々しさに、つつい僕のコ元もほころびます。

棚田LOVER'S FESは、僕が理事長を務めるNPO法人・棚田LOVER'Sが主催するイベントです。2016年から毎年開催しており、最初の年は120人だった参加者数が、2020年には500人にまで増えました。

これだけ多くの方が来てくれて、皆さんが笑っている姿を見ると、イベントを開催して本当によかったと心から思うのです。

夕暮れ時。ステージからは沖縄の伝統的な楽器・三線の音色さんしんが聞こえてきます。以前から懇意にさせてもらっている沖縄出身のミュージシャン、まーちゃんうーぱー率いるまーちゃんバンドの特別ライブです。

まーちゃんうーぱーの力強くも優しい歌声と、三線のぬくもりある音色が市川の風に乗り、雄大な笠形山へと運ばれていきます。

いつの間にか、僕は泣いていました。僕だけではありません。お客さんたちも涙を流していたのです。僕はもう、胸の底から湧き上がってくる感動を抑えることはできませんでした。頬を熱いものがぼろぼろと伝わり、まるで止まってくれませんか。

そのとき、僕の頭に思い浮かんだのは、2008年に長崎で行われた棚田サミットで見た光景でした。あの夜、ろうそくの淡い光で浮かび上がった棚田の美しさに、僕は雷に打たれたような衝撃を覚えました。

あまりにも美しすぎる光景を目の当たりにして、涙が止まりませんでした。周りにいる人たちも僕と同じように感動し、肩を震わせて泣いていました。

そのとき、僕は不思議な感覚を味わいました。皆の意志にふれるような感覚があつて、全員の心が溶け合つてひとつになる気分になったのです。

そして、僕は決意したのです。こんなにも素晴らしい棚田をなくしてはいけません。一生をかけて守り、発展させ、次の世代へと伝えていこうと。それが僕の使命なのだ。

あれから10年以上経つた今、僕はフェスに参加した皆さんとも、想いを共有できている気がして、嬉しく思いました。

正直、フェスの準備はめちゃくちゃ大変でした。スタッフのみんなもすぐがんばつてくれました。

かつては大学のいちサークルにすぎなかった棚田LOVERSが、今では500人規模のフェスを運営するまでに成長できました。

ですが、ここまでの旅は決して順風満帆ではありませんでした。何度もトラブルに見舞われ、失敗を繰り返し、自分の無力さに絶望したことなんて、一度や二度ではすみません。

それでも僕が何とかやってこれたのは、多くの人に支えていただいたからです。同年代の仲間たち、学校の先生、農家の先輩方、家族、棚田LOVERSのみんな。

人生の節目はもちろん、なにげない日常においても、彼、彼女たちの助けがあつたからこそ、僕は何とかここまで走り続けることができたのです。

僕は人に助けられました。人に導いてもらいました。

僕は自然に感動を与えてもらいました。自然に夢を見させてもらいました。

これから僕がこの本に著すのは、華々しいサクセス・ストーリーではありません。僕や僕の仲間たちが地道に、泥臭く、一步一步進めてきた活動の記録や、棚田LOVERSの歩みを書いていきます。僕自身の過去についても、「これを機会に」と、一度振り返ってみました。また、僕がどういう人間かを浮き彫りにするというところで、いつもお世話になっている方々数名のインタビューも掲載します。これについて僕はノータッチなので、どんなお話をされているのかは興味半分、不安半分といったところでしょうか(笑)。

本書には、今、僕の心の中にある全てを詰め込みました。この本を読んでくださった方が僕や棚田LOVERSに興味を持ち、棚田や自然のことを考える時間を1秒でも多くつくっていただければ、これに勝る幸せはありません。

永菅裕一

(シャイニング棚田くん)

はじめに

10

第1章

僕、永菅裕二について

17

- 誕生 〓兵庫県神崎郡市川町に生まれる〓
- 小学生時代 〓真面目な少年が壊れた日〓
- 中学生時代 〓勇気を振り絞って入学式へ〓
- 高校生時代 〓僕は環境問題に挑戦するんや!〓
- 姫路工業大学へ進学 〓棚田LOVER,S誕生秘話〓
- 初期メンバー3人の離脱 〓未来と希望に満ちた組織運営を誓う〓

65

48

35

30

23

18

第2章

自然と農業の大切さを伝えたい

81

- 市川ECO農園
- 棚田エコ学園
- 米を育てるということ 〓僕の想い〓

98

90

82

第3章

人を呼び、和を繋ぎ、縁を結ぶ

119

- 棚田祭 〓棚田のように想いがこもった商店街〓
- 棚田LOVER,S FES 〓風人の祭〓
- 仲本工事さんの素敵なお人柄
- 婚活イベントを毎年開催 〓予期せぬハプニングも!〓

145

141

129

120

第4章

伝統と技術を次の未来へ

155

- 有機農業講座 〓スーパ―農家さんに学ぶ〓
- 有機農業 〓安心安全な農業を目指して〓

159

156



## 第1章

僕、永菅裕一について

おわりに

283

第6章 応援メッセージ

253

第5章 仲間たちの声

185

特別インタビュー ご両親に伺った永菅家での棚田くん

246

古民家の素晴らしさ 〈心と心が通う空間〉  
古民家での味噌&納豆作り体験  
古民家再生・楽縁プロジェクト 〈古民家を民宿に〉  
歓喜のJOLAファイナリスト選出！  
念願のバリの棚田を訪れ大感動

180 174 170 166 164